



今和の現代の
松江怪談

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o

U u k e o - o



私の高校時代の夢は、松江市長になることでした。

今、2025 年、私は V2 を達成しました。

松江のことは、私に任せてください。ちゃんとやります。

職員、市会議員の皆様、私に任せてください。すべて私が決めます。

市職員に申し上げます。

市長を裸の王様にしているあなた方にも責任があります。

あなたたちは公僕です。ちゃんと市長、上司に言うべきことを言うべきです。

職までは奪われることはないですから。



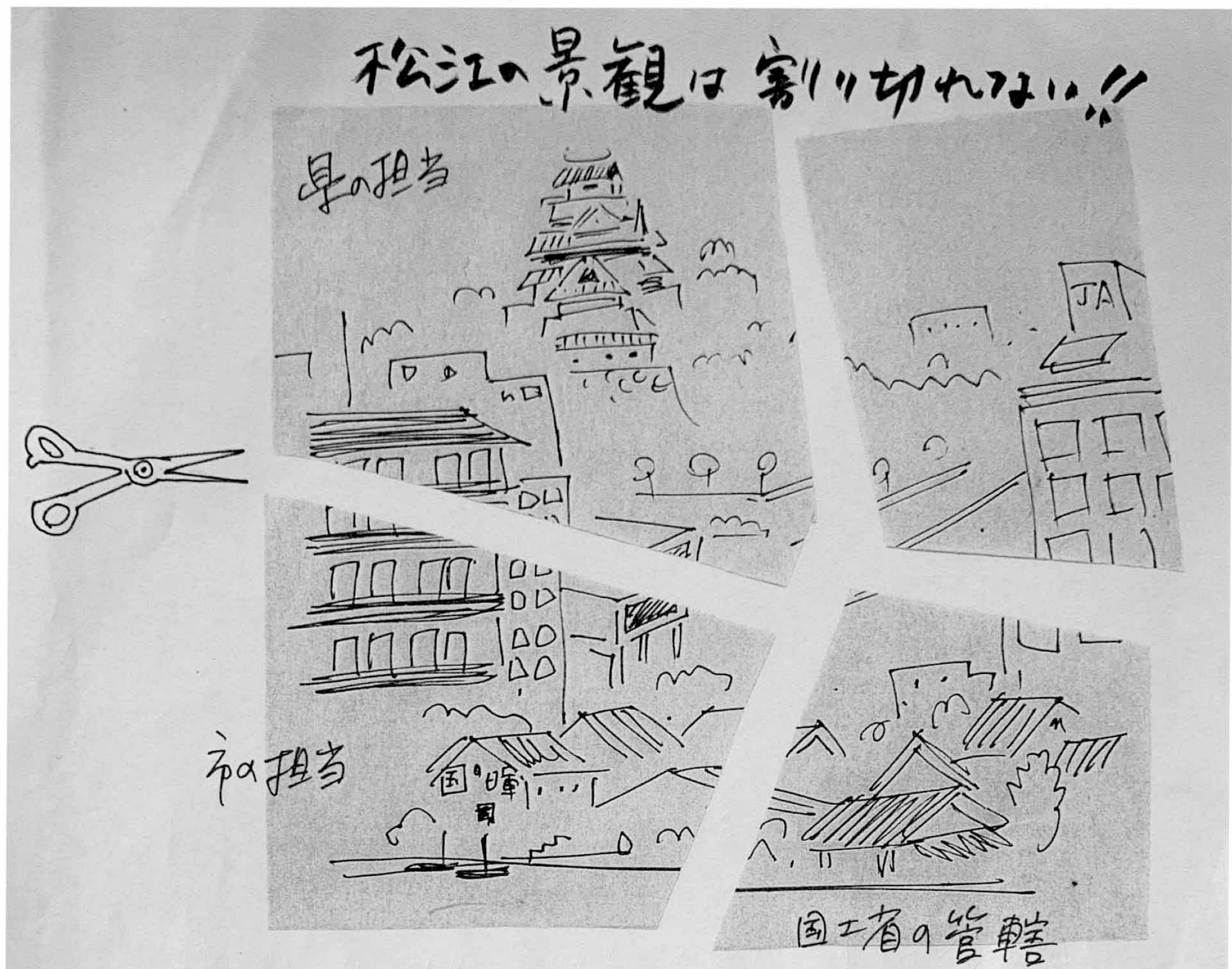
「ほほう、上定さん、舌が二枚ありますね。それもよく使い込んでおられる。立派な二枚舌ですよ。」

「市長をしてるとね、その時その時、色々なことを言わないといけな
いのでね。

ある時はこのマンション一つで松江の景観が壊れることはない、と
か、ある時はこのマンションが世界遺産への径の妨げにはならない」
とか。

「選挙が近づいてきた時には、「私はこのマンションには最初から反
対でした。信じてください、と舌を使い分けます。」

「いやー、自分自身少しこんがらがっていますけどね。」



松江の風景・景観は、市・県・国と簡単に割り切れるものではない。
担当はそれぞれ市・県・国であるのはいいけれど。

今回のタワーマンションの件、
松江の中でも最も大切な場所のひとつ、いわば「玄関先」での出来事。

まず、公的な信用保証協会と JA 協済が、土地を高く売るために、
鴻池と組んで、県外・大阪のマンション業者にこの土地を売却したことに始まる。
本来であれば、このような一等地は、県なり市なりに相談すべきであった。

また、景観審議会も、このような狭い場所に 100 世帯以上のマンションを建てるこ
とは不適である、
松江の景観を大事にして欲しいという答申をすべきだった。

どっち目線？



上定市長は、最初から業者目線で物事を見ており、市民の目線に立っていなかったが故に、このような間違いを起こしてしまった。

地元の企業や一畑ホテル、大橋館などが、殿町のタワーマンションよりもまだ離れた場所にありながら、高さ 30 メートルで我慢し、これまで景観を保全してきた。

30 メートルという基準で決めておけば、何の問題も起こることはない。京都や松本市のように、強い条例をつくれば、今回のような問題は起こらない。

なぜに県外の業者に忖度するのか、不可解である。

何か確約しているの？

Hotな関係



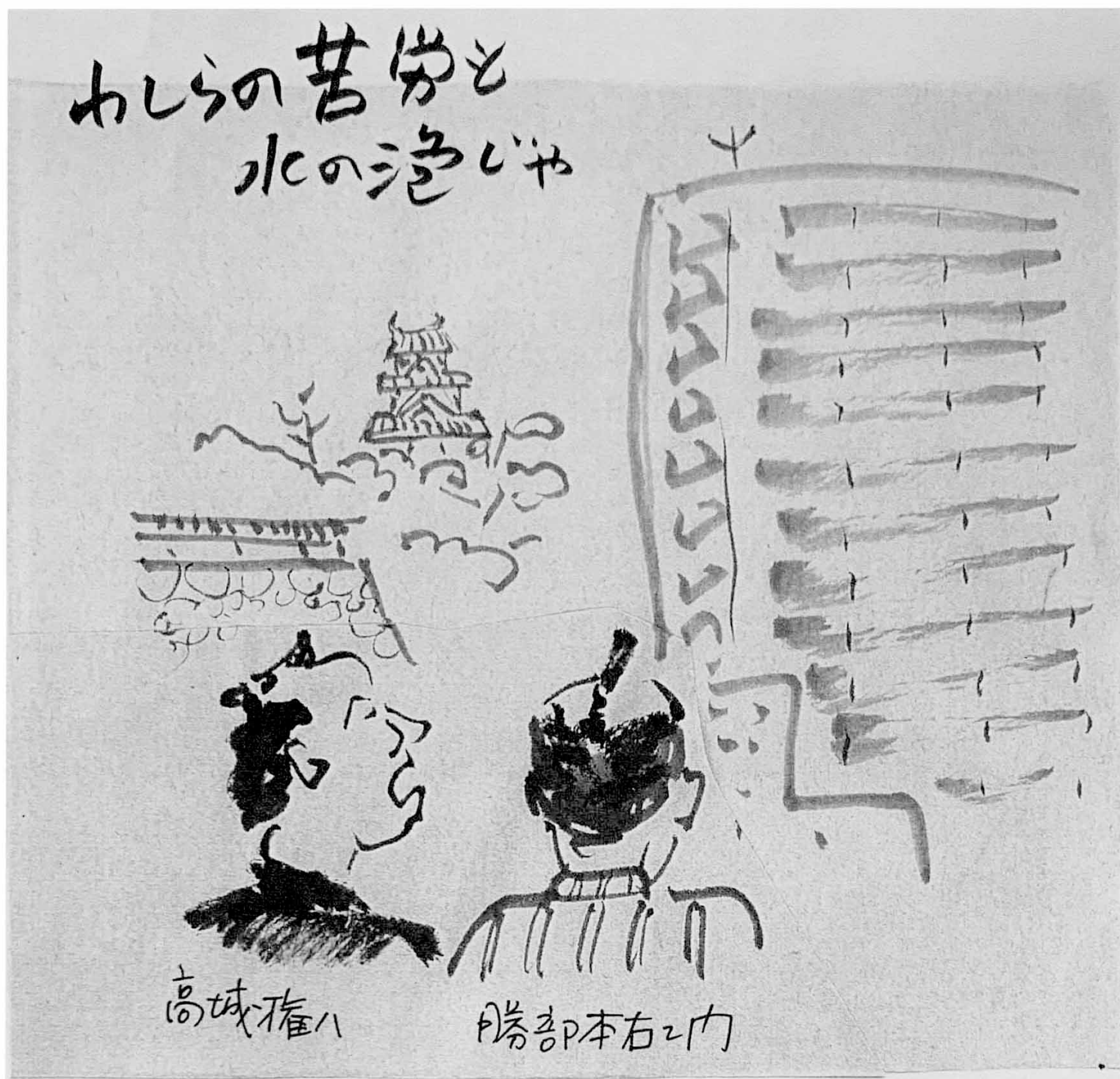
ラブラブ……

景観審議会は本来、市の景観行政に提言したり、チェックする機関である。市民・県民の目線で考えるべきなのに、いつの頃からか、業者・大企業優先の運用をしている。

これの大きな誤りの一つが、山陰合同銀行である。
松江のど真ん中に、このような異様な建物を許してしまった。

今回の殿町タワーマンションも、上定市長・千代会長が、このタワーマンションありきで、市民目線で松江のことを考えなかったために、こうした結果に終わった。

その責任は、限りなく重たい！！
ラブラブで「うまかったネ」と温泉に浸っている場合ではない！！



高城「わしらが折角買い戻して、辛うじて残った松江城、いろいろの人の
努力で国宝になったのに、こりゃ何だ!!」

勝部「大阪の商人、京阪屋のマンションじゃそうな!」

高城「大阪の金持ちの屋敷ですか?」「上定代官は何も言わんのかね。」

勝部「上定代官が許可したそうな。」「他の役人は何も言わんのかな。こ
んな大事なことなのに。」

勝部「わしらの苦勞も水の泡じゃ。」

高城「これじゃ世も終わりじゃ。わしら死んでてよかった。」

勝部「これじゃ死にきれんけどな。」

その内 忘れじやう



寝たふりして待つやう……

このタワーマンションは法的に違法ではないから、今さら市長が予算を付けたり、代替地を提案したりすれば、「誰かに無駄にお金を使った」と訴訟されるかもしれない。

今は、寝たふりを決め込んで、完成するのをじっと待つのが得策——そう思っておられるでしょう。

——しかし、問屋はそう簡単に卸しませんよ。——

法では、個人の土地に個人が好きなものを建てる権利はあるのですが、一企業の利益よりも、

20 万人の松江市民が自分たちの「ふるさとの景観」を守りたいという権利のほうが、優先されるべきである。

最初から市長がこのことを市民の総意として、業者に真摯に話しておられたなら、このようなことにはならなかった筈。

そもそも、業者が最初は 15 階で申請していたものを、なぜ市の担当者が「もっと高くてもいい」として 19 階に引き上げたのか？

その責任は非常に大きい。寝たふりは駄目ですよ。

もし建ってしまったら——50 年以上、この「殿町タワーマンション」のことを皆は、

「上定マンション」と呼び続けますよ。

景観審議会
小委員会発足
？



マンション
賛成派

この指と一子れ!!
こっちの水は甘「そ」



マンション反対派は退場!!

殿町タワーマンション、思いがけず一部市民から反対運動が起きたので、景観法を改正いたしま〜す。(2万人の署名もあるしね。)

はい、このマンションに賛成の方は、こちらにお集まりください。

このマンションに反対で、再審議を要求した9人の方々は、速やかに退場してください。

賛成の方4人に加え、外部から“良い人”を2人お招きして、小委員会を構成し、新しい案を作ることにします。

これなら反対意見も出ませんので、市長も、県外の業者さんも、さぞお喜びになることでしょう。

ちなみに——会長こと私、千代章一郎は、島根生まれではありません。あしからず。



申し訳ありません。

市長は駅前構想や体育館の改修、市役所もまだまだ予算が膨れそうですし、8字構想、少子化対策など、いろいろな問題が山積みしている中で、私たちがいつまでも「殿町タワーマンション反対」と騒ぎ立てていること、本当に申し訳なく思います。

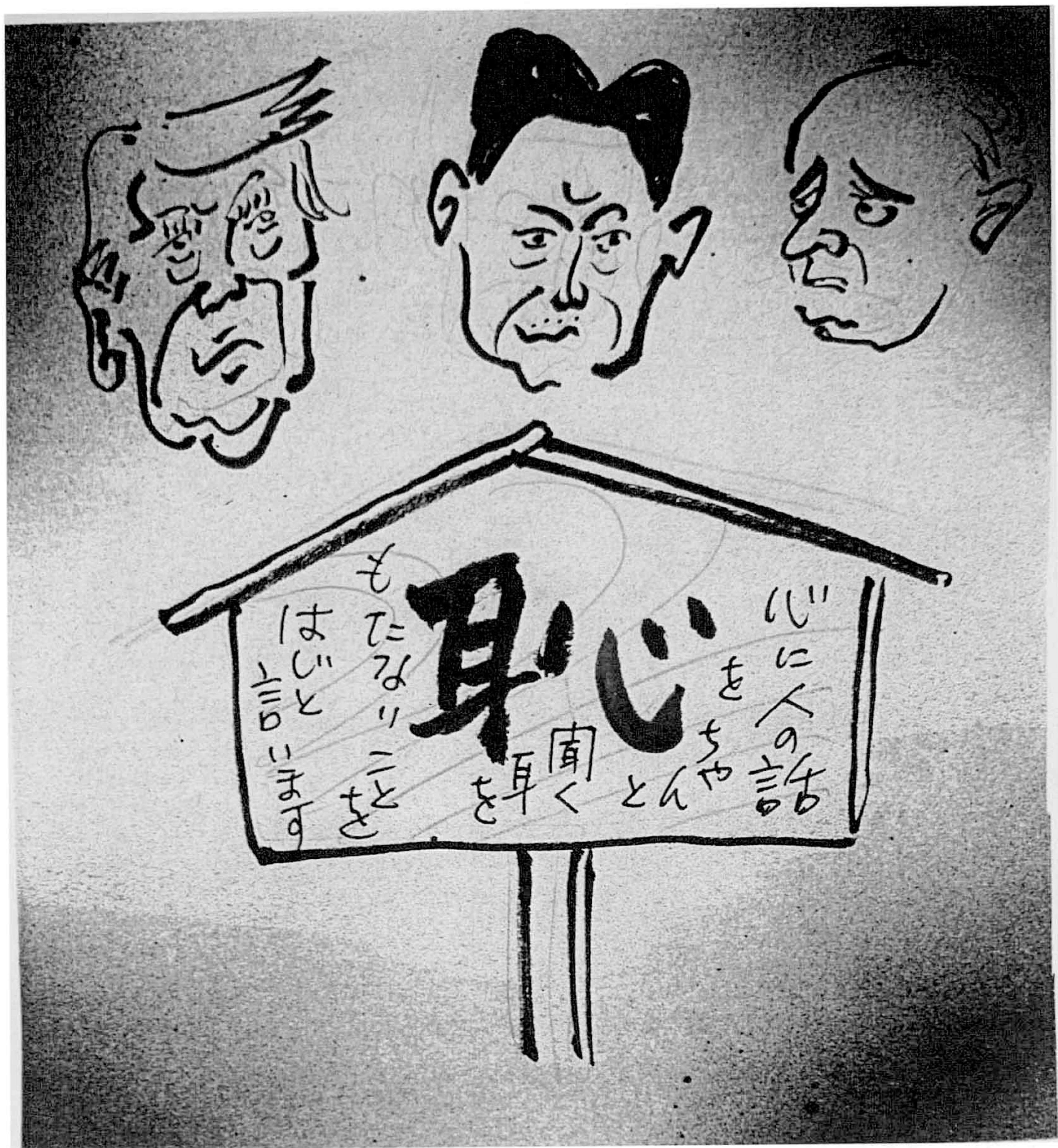
しかし、他の問題もちろん大切ですが、この「殿町タワーマンション」——これがもし本当に建ってしまったら、観光面、世界遺産登録の件、そしてインフラ整備も、税収以上に大きな負担がかかってくると思うのです。

さらに、市民のストレスは計り知れないものになります。

そして50年後、これが老朽化したとき、いったい誰がどう処理するのか？ おそらく誰も手をつけられず、大変大きな「ツケ」を、私たちの孫の世代に残すことになってしまいます。

——今が、最後のチャンスです。

このマンションを10階建ての、普通の規模のマンションにさせていただいて、50年先まで見据えた予算を考え、予算をつけるとか、あるいは代替地を提案するとか、そうしたことを一緒に考えませんか。



今、世界中で——皆がどこかヒステリックになっているようです。いまだに世界各地で戦争が起こっている。

太平洋戦争が終わって、もう 80 年。「文明社会」と言われるこの時代に、まだ戦争をしているなんて……人間は、なんと愚かなものでしょう。

他の動物は、生きるために他の動物を殺すことはあっても、戦争のような、計画的な殺戮はしません。

正直、女性だけで政治をした方が、もっと平和になるんじゃないかと思う。

男は、どうして戦争が好きなのでしょう。

「自分ファースト」の人生なんて、面白くありません。

人に喜んでもらうことをする方が、どれだけ楽しくて、価値のある人生かと思います。

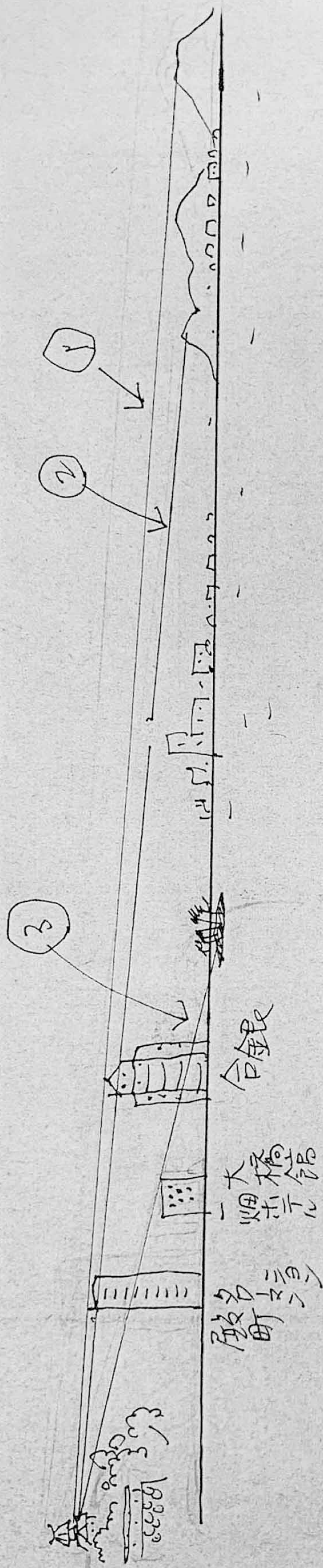
上定市長——もっと、楽しいことを考えませんか？

花火大会を 2 日もやるなんて、ちょっと野暮ですよ！

それも指定席だらけだなんて。

朝三暮四

市民は猿ではない！！



松江市の景観法というのは、運用の仕方次第で、いろいろと変わってくる。

たとえば、山陰合同銀行——異様な高さで、松江大橋の南にそびえ立っている。

観光客は皆、口を揃えて「あれは何？」と尋ねる。概ね松江市民も、この建物には違和感を覚えている。

これが建てられた理由の一つに、「天守閣から見えて、周囲の山の稜線を越えないのが望ましい」という一文がある。

これは本来、地上から見た景観を十分に考慮したうえで、観光客が天守閣から眺めたとき、山の稜線を越える建物が無いといいですね、という趣旨のものだ。

ところが、この一文がまるで免罪符のように扱われ、たった一点のみで審議されてしまった。

今回の殿町タワーマンションも、まったく同じです。

この「天守閣からの視点」だけを基準にして審議が進められた結果、まるで化け物のようなマンションが出現【①の図線】。

今、新しくマンション賛成派の4人と、外部から2人を入れて考えている案も、「ちょっと高いようだから、手前の山の基準線【②の図線】に基準を合わせましょう」というもので、城からの距離や位置は、①とほとんど変わっていません。

地元の企業は、30メートルという高さを守りながら、これまで松江の景観を保全してきた。ならば、このマンションも30メートルで決めればいい。

なぜ、県外の業者にそこまで付度したいのか——理解に苦しみます。



Give us back the sky

令和の現代の松江怪談

漫画・文 斧 堂郎(ひろ)

発行者 まつえ風景会議

松江市外中原町216-5

(株)寺本建築・都市研究所

電話:0852-26-1196

本書の無断複写・転売・拡散
著作権の例外として解放します。



<https://matsue-fukei.jp/>